

## 次世代IPインフラ研究会 IPネットワークWG（第2回） 議事要旨

- 1 日 時： 平成17年2月4日（金） 10：00～12：00
- 2 場 所： 総務省9階 第3特別会議室
- 3 出席者：

〔WG構成員〕（敬称略、五十音順）

五十川洋一、冲中秀夫、加藤徹、是友春樹、児玉平生、後藤滋樹（グループリーダー）、志岐紀夫、田辺顕能、高瀬晶彦、千村保文、塚本博之、土森紀之、寺崎明、橋本信、堀崎修宏、三膳孝通、水谷幹男（安間代理）、大和敏彦、渡辺武経

〔総務省〕

有富総合通信基盤局長、江崎電気通信事業部長、吉田事業政策課長、金谷電気通信技術システム課長、田中通信規格課長、坂巻データ通信課長、秋本データ通信課調査官、湯本事業政策課課長補佐、中沢電気通信技術システム課課長補佐

### 4 議 事

パワードコム、ケイ・オプティコム、沖電気及び総務省が、それぞれ資料WG2-1、WG2-2、WG2-3及びWG2-4に沿ってプレゼンテーションが行った。

### 5 自由討議

主な発言の概要は以下のとおり。

- 論点案で提案された事項は、他の団体で検討が行われているものもあるが、このWGでどこまでやるか、いつまでにどの範囲までのアウトプットを出せば良いのか等についての総務省の考えを伺いたい。
  - まずは一通りの課題を洗い出したいと考えている。その上で、方向性が出せるものについてはある程度の方向付けを行いたい。全ての論点について検討・結論を行うのは時間的に困難であると思料。
- はじめの段階で論点が抜けていると後でつけ加えるのは大変なので、現時点で想定される全ての検討課題を可能な限り明らかにしてから詳細な議論に入っていたほうが良い。
  - 総務省が提案した検討の視点（案）に付け加えるべき点等があれば何なりとご意見賜りたい。
- 総務省説明資料のWG2-4には、セキュリティ：通話セキュリティの論点を挙げておいたほうが良いのではないかと？
  - 安全性、信頼性、相互接続はそれぞれ関連するが、品質・機能、安全性・信頼性、相互接続という順序で議論するのが適切ではないかと考えている。

安全性・信頼性については次回会合で特にとりあげる予定。

- 「次世代ＩＰインフラ研究会 ＩＰネットワークＷＧ」というこの会合の名前からすると広い意味に捉えられるが、今回のＷＧでは音声サービスを提供するための電話網の将来像等に焦点を絞って議論を行うということか。
  - 必ずしも電話網に絞るつもりはない。最終的にはＩＰネットワーク全体のアウトラインについても是非議論の対象としていただきたいと認識している。但し、議論の出発点として、国民生活にも最も大きな影響があると思われる音声サービスに関する課題から検討を始めるのが良いと考えているところ。
  - 第１回会合でも議論があったが、社会的な要請もあり、音声を中心としたところとなっているということ。議論のなりゆきで、どんどん他に及ぶということもありうる。それを制限する必要はない。
- 品質を考えると、ＩＰ電話という括りで絞ってよいのか？
  - まずは既存の固定電話に代替するＩＰ電話、すなわち０ＡＢＪ番号を用いたＩＰ電話を主に意識している。もちろん０５０やいろいろなアプリケーションを用いたＩＰ電話の品質についても議論することを否定するとの趣旨ではない。
- 資料ＷＧ２－４の発表の中で、音声電話サービス以外の検討対象としてテレビ電話や放送などがあげられていたが、その他にもガスの検針等の代表されるノーリングサービスなど社会インフラ性の高いものについては、議論の枠組みに入れても良いのではないか？
  - テレビ電話等はあくまで例示であり、ご指摘の点等についてもぜひ議論していただければと思料。

以上